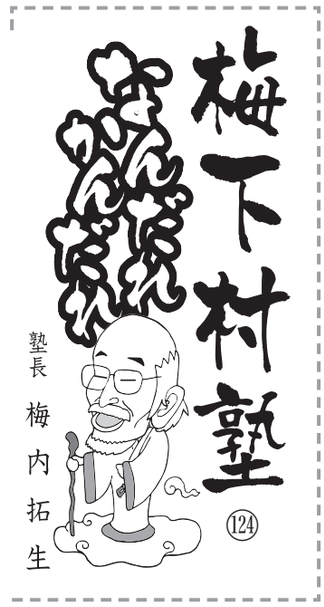
「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



芸術祭参加大船渡短歌会作品から

地球と仏

（藤の花と引力）

引力にさからはず宙に静止してだらりと下がる藤の花房

一房の今年の藤の紫は去年よりもなお美しく見ゆ

村上　美江

だらりと房を垂らして藤の花がさいている。宇宙時代の無重力の世界を感じ取っているのかな！

返　句

さからわず天命感じ我が人生

（大樹と観音様）

吾の貧しき心を見つつ両の手は抱き寄すごとき十一面観音

幹剥がれをれども凛と太子堂まもるがに立ついちいの大樹

金野　孝子

観音様は大樹から生まれてきますね。そして大樹は太子堂を守っておりますね！

返　句

天と地を大樹つなげて観音様

（収獲と音楽）

音たてて庭の胡桃の落つる音栗鼠の食む音リズム持ち来ぬ

熊避けにラジオのボリューム最大に裏山へ入り木苺を摘む

新沼志保子

実りの秋になりましたね。鼠は栗を食べ熊はドングリを食べますが、今年は山の実りはどうでしょうかね。クマよけにラジオを携帯する必要がありますね！

返　句

秋実り熊もネズミも月の宴

（手のひらの小さな命）

手のひらの中に蛍を包み来ぬ帰らぬ人の御霊と思ひ

スーパーに行く楽しさは遭ふ人のぷよぷよまるき赤子見るとき

斉藤　陽子

掌の蛍、乳母車の赤ん坊、小さな命に触れると心がなごみますね！亡き人の御霊と蛍、まさに輪廻転生の世界ですね！

返　句

ほたるよぶよこ顔過ぎるほたるかな（一茶）

猿を泣く旅人捨子に秋の風いかに（芭蕉）

の二句を返します。現代の斉藤陽子さんの世界から江戸時代の一茶、芭蕉の世界へ思いを馳せてください。

（聖なるもの）

うつせみの世はいとわしも寺内の静けさに抱かれ心安らぐ

木立漏るる夕陽踏みつつ参道の青田の香り大きく吸ひぬ

千葉　ミヨ

静かな寺の境内、青田を見はらす夕陽を浴びた神社の参道、聖なるものにつつまれる感じをおぼえますね！

返　句

大自然　聖なる喜び老いて知る

（うつつ世と観音）

望月の光まとひし観世音おりたち給へ白萩の滝

刻々と時はあざみをすり抜けて綿毛となりて大空を舞ふ

休石庄太郎

望月の白萩の滝、観世音は大空をくまなくてらし、アザミの綿毛は中に舞う、うつつ世と観音の幻想的世界ですね！

返　句

白萩の　滝や観世音月明り

（文化の交差点）

摩周湖の霧に写りぬ我が影の手振りているよ光の輪の中

水平線に添ひてのびゆく斜里国道岳より見下ろす碁盤割りの町

田中　君代

北海道の大地はロシア経由のキリスト教と日本の仏教文化の交差点です。この交差の中から新しい光がうみだされているのでしょうね！

返　句

この大地　文化の交差知恵を生む

（地球　神仏　科学、気仙魂）

中国の首都北京の天安門広場で自動車による自爆テロとみられる事件が発生し、中国共産党政権はこの報道の鎮静化に努めている。宗教や思想の自由を求めて南北米大陸にヨーロッパから移住してきた人々が色々な国家を掲げて生活をしている、米国と自称している。これら国家の代表である。これら国家の秘密情報の漏洩による問題が多くの国を巻き込んで話題を呼んでいる。

地球温暖化、異常気象、地殻変動による地震や津波など、地球規模の変動は人間の営みと密接につながっていることが、歴史的にも科学的にも明らかにされつつある。

科学技術の進歩は地球外の衛星に人間を送ることを可能にしたが、そこで生活するのかどうかは別の問題である。別の視点に立てば、人間が宇宙を人間の欲望で汚染しているとも考えられる。原子力エネルギー利用は大きな壁にぶつかっている。原子力エネルギーを生み出すための核廃棄物の処理の理論と技術の道筋が未だ不明なことである。

我々が命を受けている地球、神仏、科学はつながっており、魂はそれらをつなげていると考えると、心が広く深くなってくる感じがする。「輪廻転生」の現代解釈につながるものと思う。この視点から「気仙魂」を掘り起こすことを念頭に、芸術祭参加大船渡短歌会の参加作品評を（123）にひきつづいて述べました。

（狐狸話とその裏）

米国、中国、EUなどでは世界を騒がす諜報謀受情報が交差している。しかし、これら諜報謀受事件の奥の姿は見えにくい。これら国々をはじめ、世界のどこの国に行っても草の根の人々はその地域の歴史と文化とのつながりから、生活の規範をつくって暮らしている。

中国の故事に「遠交近攻」がある。中国共産党政権はまさにこの「遠交近攻」を引き継いでいる。日本はまさにこの戦略の対象になっているわけである。狐狸話から距離を置いて戦略をねる必要がある。これにさらに困ったことは中国の周りの一つ二つの国がこれに付和雷同していることである。北京の天安門広場で乗用車による爆破事件が報道されている。直ちに中国当局が報道規制を始めている。国連が現在の世界は環境受容能力の限界を超えた営みをしていると発表している。

地球規模の気候変動、世界の政治の不安定、これらは互いに連動しているものと考えられる。先日、芸術祭参加大船渡短歌会の作品に目を通した。

中村光氏の作品〝満ち満ちてデーサービスにゆく私生きる力のコマが廻り来る〟と〝車椅子の老女の背なをさすりゐるデーサービスのスタッフ優し〟に心を打たれた。リハビリサービスは心身を癒してさらに社会も癒しているものと思う。

現在これに関して、東京の青梅今井病院と高知市の高知リハビリ学院ではリハビリテーション社会学の一環として取り組みがなされている。

10月26日の東海新報第1面の「丹波山村（山梨）と調印　単独では2カ所目　災害時の相互応援協定　住田町」が掲載されている。これは、中国の「遠交近攻」とは異なる「遠計隣交」の戦略である。日本政府もこのような深謀遠慮の政策を育てる必要がある。住田町の山の文化は縄文文化の名残を色濃く残している。21世紀は縄文文化の知恵を現代にどのように生かすかを真剣に求めるべき時代である。

（東海新報記事から）

10月30日（水）の第1面の「まずは実習の場活用へ　北里大三陸キャンパス　地元と大学の協議始まる」、「費用効果以外で評価を　町長が事業促進から意見　大規模事業評価専門委　津付ダム建設を審議　盛岡市で」、「世迷言　中国の首都・北京の天安門前で車が車道に突入、炎上した事件は事故というより故意、つまりテロの可能性が濃厚」、第4面の「はるか先を行く国ノルウエー小松正之」、第5面の「投稿　わたしの詩歌論（2）　大船渡市盛り町　狩集　憲彦」らの記事には梅下村塾（123）の（血縁と地縁）と（地球と仏）に通じるものが述べられている。地球の環境受容（エコロジカルフットプリント）の限界をはるかに越えている、地球文明は身を削り、そして絞ってこれに対応する覚悟と行動が必要である。この行動への萌芽が気仙地方に生まれていることを期待したい。